

児童労働は教育と代替関係にあるか？

カンボジア農村のタイムユーズデータを用いた実証分析

那須田 晃子*

一橋大学大学院経済学研究科博士課程

【論文要旨】

一般的に途上国の就学率の低さは「貧しさ」が原因であると言われるが、その影響は主に2つのルートで及ぼされていると考えられている。1点目は貧しさ故に学費が支払えないため学校に通えないというもの。2点目は貧しさから子供たちは働き、家計所得に貢献せねばならず学校にいけないというものである。しかし本当に子供たちは働かなければならない為に学校に通わないのであろうか。「就学は児童労働によって阻害されているのか」を分析するため、本稿ではその前段階として、就学と児童労働の決定メカニズムの分析を行った。

本稿では Cambodia Socio-Economic Survey 2004 (CSES04) のデータに含まれる、個人のある1日についての行動を記録したタイムユーズデータを用い、就学・農業労働・余暇について子供の時間配分を分析した。途上国データにおいてタイムユーズデータを含むものは少なく、時間配分の分析を行った研究は少ない。

土地を持つ家計の子供は持たない家計の子供よりも就学時間を減少させ、より農業労働を行う「資産パラドックス (Wealth Paradox)」が観察され、これまでの研究を追認する結果となった。一方で就学時間の減少は農業労働の増加よりも小さく、余暇を減少させることで農業労働時間を補っていることが確認された。これは必ずしも農業労働に従事することが、就学を阻害するとは言えないことを示唆する結果となった。また生産効率を高める農業機械を保有している家計ほど、子供の余暇を増やすことも確認された。

* E-mail: ed092001@g.hit-u.ac.jp